

教科名 **国 語** 科目名 **現 代 の 国 語** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **現代の国語(大修館書店)**

副教材（発行所） **現代を読む評論文20選ステップアップ(明治書院)、入試類出漢字+現代文重要語彙TOP2500(いいずな書店)**

学 習 目 標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観 点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
別 評 価	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみを教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 ・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ「水の東西」(読む) 3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 「わかりやすく書く」(書く)	・叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 ・文章の要点をまとめる。 ・話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 ・相手に正確に伝わる書き方を身につける。	
		6	4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	・他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 ・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。
	7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	夏季課題学習
第 2 学 期	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	・相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 ・さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。	夏季課題提出
	10	7 資料を駆使する 『「安くておいしい国」の限界』(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	・資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 ・統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。	
	11	8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	・質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。	
12	9 情報を比較する 『「美しさの発見」について』(読む)	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	冬季課題学習	
第 3 学 期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 ・資料に基づいて、聞き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 ・他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 ・司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	春季課題学習

教科名 **国 語** 科目名 **言 語 文 化** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **言語文化(大修館書店)**

副教材（発行所） **基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート(桐原書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)、基礎から解釈へ 漢文必携(桐原書店)**

学 習 目 標	言語文化に対する理解を深めつつ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを深めたり広げたりするとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
観 点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
別 評 価	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 言語文化への視点 「世界を見わたす窓」 2 言葉の紡ぐ世界 「羅生門」	・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 ・場面ごとの人物の心情変化を読み取る。	
	5	3 伝統と発展 「実体の美と状況の美」 「短歌 十二首」 「俳句 十五句」	・美についての筆者の考えを読み取る。 ・短歌や俳句に親しみ、表現の特徴を理解する。 ・作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。	中間考査
	6	4 表現の多様性「夢十夜」 5 日本と世界 「外国語の不思議 日本語の不思議」 6 文学と人生「城の崎にて」	・作品の表現に着目しながら読み味わう。 ・日本語と外国語の特徴を捉え、日本語を相対化し見つめ直す視点を養う。 ・主人公の心情変化を、動物や自然との関わりから読み取る。	
	7	探究「災害の記録」	・異なる時代に書かれた記録文を読み、災害が人々に及ぼした影響について考える。	期末考査 夏季課題学習
第 2 学 期	9	1 古文に親しむ 「宇治拾遺物語」 2 自然へのまなざし 「徒然草」「枕草子」	・古文の仮名遣いや、特有の言い回しに慣れる。物語の展開を捉える。 ・自然の情景に対する作者の感覚を捉える。	夏季課題提出
	10	3 想いを表す言葉(一) 「恋するころ」 「四季の移ろい」 「旅と別れ」	・和歌の印象的な部分について考える。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・自分の感じたことを言葉にする。	中間考査
	11	4 人との交わり 「伊勢物語」 「源氏物語への招待」	・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・『源氏物語』の概要を知り、他の作品に与えた影響について考える。	
	12	5 語り継がれる歴史 「平家物語」	・特徴的な文体のリズムを味わう。 ・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているか読み取る。	期末考査 冬季課題学習
第 3 学 期	1	6 旅と人生 「土佐日記」「更級日記」 1 漢文に親しむ 「私たちと漢文」「論語」	・旅に出るまでのならわしや、旅立ちに際しての思いを読み取る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。 ・漢文に親しむ。	冬季課題提出
	2	2 現代に生きる言葉 「蛇足」「完璧」 3 想いを表す言葉(二) 漢詩	・漢文訓読のきまりを知り、この話から生まれた言葉への理解を深める。 ・漢詩の形式や詩の特徴を理解し、読み味わいながら表現の工夫を読み取る。	
	3	4 文学と社会 「雑説」	・論理の展開を読み取る。 ・作者の主張を読み取る。	学年末考査 春季課題学習

教科名 **地歴公民** 科目名 **地理総合** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **地理総合(東京書籍)**

副教材(発行所) **地理総合ワークノート(東京書籍)**

学習目標	必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観点別評価	知識・技能 地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現 地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的に考察や深い理解に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 地図や地理情報システムの役割	緯度・経度、地球儀と世界地図、日本の位置と領域 [発展]適切な地図を選ぼう 地図種類、地形図ルール、主題図種類と読取、地理情報システムと地図 [発展]地形図を読み取ろう、WebGISを使ってみよう	【GW探究課題】
	5	第3章 資料から読み取る現代世界	交通の発達、情報通信の発達、国境を超える人々の移動、拡大する貿易、つながる世界・多極化する世界 [発展]グラフを読み取ろう、統計地図を読み取ろう、階級区分図を作ろう	中間考査
	6	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地球的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	文化の地域性と多様性、宗教と人々の暮らし、山地の暮らし、平野の暮らし、海岸の暮らし	
第1学期	7	3節 生活文化と自然環境②気候	多様な気候とその分布、熱帯の人々の暮らし、乾燥帯の人々の暮らし、温帯の人々の暮らし、亜寒帯・寒帯の人々の暮らし [発展]雨温図を読み取ろう	期末考査
	9	4節 生活文化と産業	食生活と農業の分布、工業立地の変化、商業立地と人々の生活、情報産業の発達と生活文化の変化	【夏季探究課題】提出
第2学期	10	第2章 様々な地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	地球環境問題(1)、地球環境問題(2)、資源・エネルギーの偏在、化石燃料から再生可能エネルギーへ	中間考査
	11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題	発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、食糧需給をめぐる問題、発展途上国の居住・都市問題、先進国の居住・都市問題 [発展]人口ピラミッドを読み取ろう	
	12	6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	民族問題・難民問題、地球的課題と国際協力 [発展]民族問題、持続可能な社会	期末考査
第3学期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	日本の地形の特色、日本の気候の特色	【冬季探究課題】提出
	2	2節 様々な自然災害と防災	地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	調査テーマの設定①、地域調査1(資料調査)、地域調査2(野外調査)、まとめと発表	学年末考査

教科名 **地理歴史** 科目名 **歴史総合** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **詳説歴史総合(東京書籍)**

副教材（発行所） **詳説歴史総合 要点整理ノート(東京書籍)**

学習目標	必修科目として、世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を培う。	
観点別評価	知識・技能	近現代の歴史を理解しているかどうかを、各学期の定期考査や単元別の小テスト・課題提出で評価し、要点整理ノート各項目の最後にある「TRY」の答えなどを提出させて、効果的に調べまとめる技能を評価する。
	思考・判断・表現	近現代の歴史の意味や意義をを考察、構想したことを説明したり、表現したりすることができるかを、定期考査の記述問題や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、近現代の歴史を学習しているという自覚をもっているか、主体的に追及・解決しようとしているかを、学習活動中の取り組みやノート・課題等で評価する。
留意事項	単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	序章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料	・前近代の日本と世界のつながり ・前近代の世界 ・歴史と深くかかわる植物	【GW探究課題】
	5	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結びつく世界と日本の開国	・18世紀のヨーロッパとアジア ・産業革命のはじまり ・東アジアの国際秩序の変化 日本の開国 ・世界経済の変化と日本の産業革命	中間考査
	6	3節 国民国家と明治維新	・市民革命と近代社会 ・自由主義とナショナリズム ・明治維新と東アジアの国際関係 ・帝国主義と植民地	
	7	4節 近代化と現代的な諸課題	・帝国主義諸国の競合と国際関係 ・20世紀はじめの世界	期末考査
第2学期	9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開 ・国際協調体制の形成 ・ソヴェト連邦の成立と社会主義 ・民主主義の拡大と社会変革の動き	【夏季探究課題】 提出
	10	3節 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・国際協調体制の崩壊 ・日中戦争と深刻化する世界の危機 ・第二次世界大戦の勃発	中間考査
	11		・アジア太平洋戦争と日本の敗戦 ・連合国の占領政策と日本の戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 ・再編されるアジア	
	12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・花ひらく大衆文化	期末考査
第3学期	1	第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	・冷戦の拡大と第三勢力 ・キューバ危機と核兵器の管理 ・冷戦下の日本とアジア ・ベトナム戦争と冷戦構造の変容	【冬季探究課題】 提出
	2	3節 世界秩序の変容と日本	・石油危機と経済の自由化 ・アジアの経済発展と日本 ・冷戦の終結と世界 ・拡散する地域紛争	
	3	4節 現代的な諸課題の形成と展望	・この時代の生活・文化	期末考査

教科名 **数 学** 科目名 **数 学 I** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **3** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **深進数学 I（啓林館）**

副教材（発行所） **Grasp I A（啓林館）**

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明（表現）することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価（自己評価）・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2次関数の最大・最小	関数，2次関数のグラフ，2次関数の決定 【探究】グラフの平行移動・対象移動 2次関数の最大・最小，最大・最小の応用 【探究】定義域が変化するときの最大・最小	準備課題提出 確認テスト
	5	第3節 2次関数と方程式・不等式	2次方程式，2次関数のグラフとx軸の共有点 [発展]放物線と直線の共有点 【探究】絶対値を含む関数のグラフ 2次不等式とその解 【探究】2次方程式の解の存在範囲	中間考査
	6	第3章 集合と命題 第1節 集合と命題	集合と命題 逆・裏・対偶 [発展]「すべて」と「ある」 [探求]背理法の応用	
	7	第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張	三角比の定義・相互関係 半円と座標を用いた三角比の定義	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3節 正弦定理と余弦定理 第4節 図形の計量	正弦定理と余弦定理 [発展]三角形の形状 図形の面積と計量 [発展]三角形の内接円の面積・ヘロンの公式	夏季課題提出 確認テスト
	10	第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 第2節 統計的探求プロセス	度数分布表とヒストグラム・代表値・四分位数・分散と標準偏差 データの相関と散布図・相関係数・相関と因果関係・仮説検定 [探求]データの散らばり具合の指標 [探求]PPDACサイクルの利用	中間考査
	11	<数学II>第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式	3次の乗法公式と因数分解 二項定理 [探求]パスカルの三角形の特徴	
	12		多項式の除法 分数式の計算	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第2節 式と証明	恒等式 等式の証明 不等式の証明 [探求]相加平均と相乗平均の利用	冬季課題提出 確認テスト
	2	第3節 高次方程式	複素数 2次方程式の解と判別式 2次方程式の解と係数の関係 [探求]2次方程式の実数解の符号	
	3		剰余の定理と因数定理 [参考]組立除法 高次方程式 [探求]共役な複素数の利用	学年末考査 課題学習

教科名 **数 学** 科目名 **数 学 A** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **深進数学A(啓林館)**

副教材（発行所） **Grasp I A(啓林館)**

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。		
観 点 別 評 価	知識・技能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。	
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。	
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	集合の要素の個数 場合の数 和の法則・積の法則 [探求]正の約数の個数	準備課題提出 確認テスト
	5	第2節 順列・組合せ	順列 いろいろな順列 [探求]立体の塗分け 組合せ 同じものを含む順列 [発展]重複組合せ [探求]最短経路の総数	中間考査
	6	第3節 確率とその基本性質	事象と確率 確率の基本性質 [探求]同様に確からしいとは	
	7	第4節 いろいろな確率 第5節 期待値	独立な試行 反復試行 [探求]反復試行の応用 条件付き確率 [探求]条件付き確率の利用 期待値	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	直線と角 三角形の重心・外心・内心 [探求]三角形の五心 チェバの定理とメネラウスの定理 三角形の成立条件	
	10	第2節 円の性質	円周角の定理とその逆 円に内接・外接する四角形 接線と弦のなす角 方べきの定理 2つの円の位置関係	中間考査
	11	第3節 作図 第4節 空間図形	作図 [探求]作図と証明 空間における平面・直線の位置関係 多面体	
	12		[探求]三垂線の定理 [探求]空間図形の捉え方	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 数学と人間の活動 第1節 数学と歴史・文化	位取り記数法 ユークリッドの互除法 地球を測る	
	2	第2節 数学とゲーム・パズル	石取りゲーム マスの敷き詰め	学年末考査
	3		1年の総復習	

教科名 **理 科** 科目名 **物 理 基 礎** **必 修**

科 別 **普 通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **改訂 新編 物理基礎(東京書籍)**

副教材（発行所） **新課程版 ネオパルノート物理基礎(第一学習社)**

学 習 目 標	主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。		
観 点 別 評 価	知識・技能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。	
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。	
留 意 事 項	年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。		

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考	
第 1 学 期	4	1節 運動の表し方 2節 変位と速度 3節 等速直線運動	運動の表し方を学び、運動の様子を定量化して調べる方法を理解する。 変位と速度の概念を理解し、活用する。 等速直線運動を定量化して表す。	【教材】映像教材、スマートカート(通年)	
		5	4節 合成速度と相対速度 5節 速度が変わる運動 6節 自由落下運動	合成速度・相対速度について理解する。 徳加速度直線運動について学び、式での表現を理解する。 自由落下運動について実験を通して理解し、重力と等加速度運動についての理解を深める。	【実験】斜面を下る台車の運動、重力加速度の測定 ○中間考査
			6	7節 鉛直投射 9節 力とつり合い 10節 力の合成と分解 11節 垂直抗力と弾性力 12節 慣性の法則	鉛直投射について理解し、式で表し活用する。 力を見つけ図示する方法を学び、静止物体にはたらく力がつりあうことを理解する。 垂直抗力と弾性力について理解する。 慣性について日常との関りを持って理解する。
	7	13節 運動の変化と力 14節 作用反作用の法則		運動が変化するとき力がはたらくことを実験を通して理解する。 運動方程式の立て方を学び、簡単な物体の運動について、運動方程式を用いて分析する。 作用反作用の法則について日常との関りを持って理解する。	【実験】弾性力の測定、力と加速度の関係 ○期末考査
	第 2 学 期	9	15節 動摩擦力とその性質 16節 静止摩擦力とその性質 19節 仕事 20節 仕事率	動摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 静止摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 物理での仕事の定義を学び、仕事を用いて運動の様子を理解する。 仕事率の定義を学び、日常との関りをもって理解する。	17節、18節は扱わない
			10	21節 運動エネルギー 22節位置エネルギー 23節力学的エネルギーの保存 24節いろいろな運動で見る力学的エネルギー	運動エネルギーの定義を学び、運動をエネルギーを通して理解する。 位置エネルギーの定義を学び、重力と弾性力による位置エネルギーを理解する。 力学的エネルギーの保存について実験・観察を通して理解する。 様々な運動におけるエネルギーの移り変わりを理解する。
		11		1節 温度と熱 2節 熱と物質 3節 熱の移動と保存 4節 熱と仕事 5節 熱機関と可逆変化	熱と温度の概念を学び、その違いを理解する。 熱による物質の変化の様子を学び、物質の3態を理解する。 比熱の概念を学び、熱の移動と熱量の保存を実験を通して理解する。 熱力学第一法則を学び、熱と仕事の関係を理解する。 熱機関のしくみを日常との関りを通して学ぶ。
12			6節 いろいろな波 7節 波の表し方 8節 横波と縦波	波動現象の特徴を日常や実験・観察を通して理解する。 波を言葉やグラフ、数式を用いて表す方法を学ぶ。 横波と縦波の特徴を理解し、違いを学ぶ。	【教材】つるまきばね、シミュレーション ○期末考査
第 3 学 期	1	9節 波の重ね合わせ 10節 定在波 11節 波の反射	波の重ね合わせを日常との関りを通して理解し作図による合成を学ぶ。 定在波の生じる理由を気づきを通して学び、その特徴を理解する。 波の反射を日常との関りを通して学び、反射波の作図を学ぶ。	【教材】ウェーブマシン、シミュレーション	
		2	12節 音波 13節 弦の固有振動 14節 気柱の固有振動	波としての音の特徴を学び、音を物理的に捉える考え方を学ぶ。 弦楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、その特徴を理解する。 管楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、疎の特徴を理解する。	【教材】共鳴おんき、弦定常波実験器 【実験】弦の固有振動、気柱の固有振動
	3				○学年末考査

教科名 **理 科** 科目名 **化 学 基 礎** **必 修**

科 別 **普 通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **化学基礎(数研出版)**

副教材（発行所） **新課程版 アプローチドリル化学基礎①～③(第一学習社)**

学 習 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや実験、課題等の実施時期については、進捗の状況のみを教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1. 純物質と混合物 2. 物質とその成分	物質の分類とその分離法について理解する 物質の基本的な成分について理解する	実験(混合物の分離)
	5	3. 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1. 原子とその構造	物質の状態とその変化について理解する 原子の構造を学び、原子ごとの構造の違いを考える	実験レポート提出 中間考査
	6	2. イオン 3. 周期表 第3章 粒子の結合 1. イオン結合とイオン結晶	イオンの成り立ちとイオンの表し方を学ぶ 周期表がどう決まりで元素を並べているか理解する	確認テスト
	7	2. 共有結合と分子 3. 配位結合、4. 分子間にはたらく力 5. 高分子化合物、6. 共有結合の結晶 7. 金属結合と金属結晶	共有結合と、分子の表し方や形について学ぶ 配位結合の成り立ち、分子間力と分子結晶の性質を理解する 高分子化合物の成り立ちや構造、共有結合の結晶の性質を理解する 金属結合と金属結晶の性質を理解する	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量	原子の質量の表し方の工夫について理解する 物質質量を用いた数の表し方について理解する	夏季課題提出 確認テスト
	10	3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と物質質量	溶液の濃度の表し方(2種類)について理解する 化学反応式が表す量的関係について理解する	中間考査
	11	第2章 酸と塩基の反応 1. 酸・塩基 2. 水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義と性質、その種類について理解する pHと水溶液の性質の関係について理解する	確認テスト
	12	3. 中和反応と塩 4. 中和滴定	中和反応のしくみと塩の性質について理解する 中和反応の量的関係と中和滴定について理解する	実験(中和滴定) 実験レポート提出 期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤	電子に着目して酸化・還元を考え方を理解する 酸化剤や還元剤のはたらきや量的関係について理解する	冬季課題提出 確認テスト 実験(酸化剤と還元剤の反応)
	2	3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用	さまざまな金属の反応性について理解する 電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	実験レポート提出
	3			学年末考査 課題学習

教科名	理科	科目名	生物基礎	必修					
科別	普通	科 学年	4 年	コース名	一貫	コース	2	単位	文理共通

教科書（発行所） 高等学校 生物基礎（第一学習社）

副教材（発行所） セミナー 生物基礎（第一学習社）

学習目標	生物や生命現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する興味、関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。演習を通じて、大学入試問題を解凍できる能力を育成する。
観点別評価	知識・技能 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)
留意事項	単元別の小テストや課題、ノート提出等の実施時期については、教科担当者が指示を行う。 実験は授業進捗の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 ①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が息絶しており、生物は多様であることを学ぶ。 生物が共通にもつ特徴を学ぶ。 原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を学ぶ。 	
	5	2. 生物とエネルギー ①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素	<ul style="list-style-type: none"> 代謝には同化と異化があること、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを学ぶ。 光合成、呼吸の反応、ATPの合成について学ぶ。 酵素の基本的な特徴について理解する。 	中間考査
第2学期	6	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 ①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とDNA、染色体の関係を理解する。 DNAの基本的な構造を理解する。 多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖し、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 分裂している細胞の各過程で起こる現象を理解する。 	
	7	2. 遺伝情報とタンパク質 ①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム	<ul style="list-style-type: none"> 生体内には多種多様なタンパク質が存在していることを理解する。 DNAの転写、翻訳の流れを理解し、タンパク質がどのように合成されているかを学ぶ。 遺伝子がゲノムの一部であることを理解する。 	期末考査
第3学期	9	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 ①恒常性と神経系 ②恒常性と内分泌系	<ul style="list-style-type: none"> 体内の状態が一定の範囲内で保たれるという恒常性について学ぶ。 体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。 	
	10	③体内環境を調節するしくみ 2. 免疫 ①生体防御	<ul style="list-style-type: none"> 血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 	中間考査
第4学期	11	②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	<ul style="list-style-type: none"> 免疫に関する細胞や器官の種類と働きを理解する。 自然免疫、獲得免疫のしくみを理解する。 免疫に関する身近な疾患、免疫と医療の関わりについて学ぶ。 	
	12	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 ①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 植生の種類と構造について学ぶ。 陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 植生は一定ではなく、移り変わっていることを具体例に基づいて理解する。 	期末考査
第5学期	1	2. バイオーム ①遷移とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 ①生態系の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 地球上において年平均気温、年降水量から、その地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解する。 生態系の構成について理解する。 	
	2	②生態系における生物どうしの関わり 2. 生態系のバランスと保全 ①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。 生態系保全の国際的な取り組み、絶滅危惧種の保全について学ぶ。 	
	3			学年末考査

教科名 **保健体育** 科目名 **体育(男子)** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **新高等保健体育(大修館)**

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかり行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・体づくり運動 ・新体力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス safely 行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 	
	5	・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スクワッド safely 行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツの発祥と成立 	
	6	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・デッドリフト safely 行うことができる。 ・安定したボール操作を身につける。 ・様々な部位を使って自分の思い通りにボールを操作できるようにする。 ・スポーツ文化の発展と現代社会 	
	7	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス、スクワッド、デッドリフトからなるbig3で自己の限界に挑戦する。 ・状況に応じたボール操作をできるようにする。 ・さまざまな状況でゴールに向かってシュートが打てるようにする。 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会 	
第 2 学 期	9	・体づくり運動 ・陸上(投てき)	<ul style="list-style-type: none"> ・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、メディシンボールを突き出して投げることができる。(グライド投法) ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 	
	10	・体づくり運動 ・陸上(走り高跳び) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・リズムカルな助走、はさみ跳びやベリーロールで跳ぶことができる。 ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・競技会を安全かつスムーズに運営することができる。 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業 	
	11	・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・スポーツに求められる高潔さ 	
	12	・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境 	
第 3 学 期	1	・体づくり運動 ・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・2キロ走を2週にわたって実施する。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とする。 ・完走後の達成感やリラクゼーション効果も体感させる。 	
	2	・体づくり運動 ・武道(剣道)	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・防具を正しく、素早く着けることができる。 ・防具を正しく、素早く片づけることができる。 ・面打ち、胴打ちを用いて攻防を行うことができる。 	
	3	・体づくり運動 ・武道(剣道)	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・45秒刻みでの地稽古で相手の動きに応じて攻防を繰り広げることができる。 	

教科名 **保健体育** 科目名 **体育（女子）** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **新高等保健体育(大修館)**

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・集団行動、自校体操、体づくり運動 ・新運動能力テスト 50M走、ハンドボール投げ、立幅跳び、反復横跳び 上体起こし、握力、持久走もしくはシャトルラン	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、挨拶、列の増減など授業が安全かつ能率的におこなえるよう集団行動を身につける。 ・本校独自の準備体操を体得する。 ・体の構造、運動の原則について理解できるようにする A:体の柔らかさ B:巧みな動き C:力強い動き D:持続する運動 ・現状の体力・運動能力を測定し、自己の結果を踏まえ体力向上に努める。 ・1スポーツの発祥と成立 2スポーツ文化の発展と現代社会 について理解する。 	
	5	・体育理論		
	6	・球技 【ホッケー】 A)スティックの扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	<ul style="list-style-type: none"> ・スティックを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
第 2 学 期	9	・陸上競技 【走り高跳び】 A)はさみ跳び・ベリーロールの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の跳び方について、助走方法や空中姿勢、着地について正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。 	
	10	【投てき】 A)砲丸投げの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・砲丸投げの投げ方を正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。 	
	11	・体育理論 ・ダンス 【リズムダンス】	<ul style="list-style-type: none"> ・3オリンピック・パラリンピックと国際社会 4スポーツの経済効果とスポーツ産業 について理解する。 ・エアロビクスの基本ステップを覚える ・基礎ステップを大きな動作で表現することができる。 ・習得した基礎ステップをつなげて踊ることができる。 	
第 3 学 期	1	・持久走 ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走やインターバルトレーニングなどを取り入れ、心肺機能の向上、健康保持増進を図る。与えられた課題に前向きに取り組む、自己の能力を最大限に発揮することができる。 ・5スポーツに求められる高潔さ 6持続可能性からみたスポーツと環境 について理解する 	
	2	【卓球】 基本技術(フォアハンド・ハーフボレー・ツッツキ) サーブ・レシーブ ダブルスでの攻防 ゲーム形式練習(ルールの理解) リーグ戦	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術を正しく身につけられる。 ・ネット型球技における攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
	3			

教科名	芸 術	科目名	音 楽 I	必修選択					
科 別	普 通 科	学 年	4 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文 理 共 通
教科書(発行所)	音楽 I Tutti+ トウッティプラス (教育出版)								

学 習 目 標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。	
観 点 別 評 価	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項	・プリント保管用のファイルを用意すること。 ・観点別評価については、学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・中学校までの復習テスト・教科ガイダンス ・楽器学 ・歌唱 ・ボディーパーカッション	・中学校までの学習内容確認 年間計画、評価方法等について説明 ・オーケストラの楽器紹介 ・校歌を覚える。素直な発声を心掛ける ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする	
	5	・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・歌唱	・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・近代・現代音楽 ・反復記号 ・日本語の歌を取り上げ、曲想の理解と個性豊かな表現を目指す	映像による鑑賞
	6	・歌唱 ・実技テスト(歌唱) ・楽典 ・ミュージカルの世界	・日本人作曲家の紹介 ・暗譜で一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・音名(日本・イタリア・ドイツ)、調号 ・ミュージカルの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る	映像による鑑賞
	7	・楽典 ・1学期の復習、小テスト	・音符の計算 ・楽典の理解力を図る	
第 2 学 期	9	・楽典 ・歌唱(イタリア歌曲) ・歌唱(ドイツリート)	・リズム譜 ・イタリアカンツォーネについて解説。イタリア語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す ・ドイツリートについて解説。ドイツ語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す	
	10	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・箏曲	・一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・ロマン派の音楽 ・関係調 ・箏と琴の基礎知識	映像による鑑賞
	11	・箏曲 ・実技テスト(箏曲) ・鑑賞、音楽史 ・楽典	・箏の練習(荒城の月)、楽譜の読み方、奏法を覚える ・一人ずつ伴奏に合わせて実施 ・中世、ルネサンス、バロック、古典派の音楽 ・音程	映像による鑑賞
	12	・バレエの世界 ・ボディーパーカッション ・2学期の復習、小テスト	・バレエの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする ・楽典の理解力を図る	映像による鑑賞
第 3 学 期	1	・ボディーパーカッション ・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞	・2学期からの継続 ・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・民族音楽(アフリカ・アジアの音楽)	映像による鑑賞
	2	・実技テスト(歌唱) ・創作	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかわらせて、イメージを持って音楽を表現する 一人ずつ実施 ・二部形式の歌を作曲	作品提出
	3	・オペラの世界	・オペラの歴史を学ぶと共に一つの作品のハイライトを鑑賞し、面白さを感じ取る	

教科名	芸 術	科目名	美 術 I	必修選択				
科 別	普 通 科	学 年	4 年	コース名	一 貫	コース	2 単位	文理共通
教科書(発行所)	高校美術(日本文教出版)							

学 習 目 標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
観 点 別 評 価	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わすことができるようにする。
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐむとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
留 意 事 項	観点別評価については、学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	オリエンテーション 立体感のある構成 〈絵画〉	高校の美術の意義、内容、制作、鑑賞など全般にわたって説明し理解を得る。 斜投影法を生かして立体感のある図形を構成し描く。	講評と観賞
	5	模写「白貂を抱く貴婦人の肖像」 〈絵画〉	教科書表紙・レオナルド・ダ・ヴィンチ作品を鉛筆にて模写。 よく観察して描くことによって、制作者の狙いや心情を理解。 原画の色彩、明暗表現をモノトーンで描く。	
	6	同	細部までよく観察し、描くことにより、その良さを感じ取り、自己の表現力を高める。 グリッド線を利用し、正確に形を写し取る。	講評と観賞
	7	文字のデザイン、色彩 進化する文字 〈デザイン〉	様々な文字のデザイン、色彩を学ぶ。 漢字がもともと絵や図から変化して文字となった経緯を理解する。好きな漢字を選びそのもともなった絵や図を自由に発想する。	講評と観賞
第 2 学 期	9	進化する文字の続き	下図を本紙にトレース。漢字の配色、画面全体の構成を考え彩色する。	
	10	手の彫刻 〈彫刻〉	自分の左手(又は右手)をモデルにして、三方向から見た形を鉛筆デッサン。立体感を感じ取る。	
	11	同	ポーズを考えて、骨格等をよく観察し、粘土で肉付けをする。手首までの充分な大きさ、様々な角度から観察をする。	
期	12	バラバラ(アニメーション) 〈デザイン〉	24コマを基本として画像撮りをする。	
第 3 学 期	1	自由制作(平面・立体可) 〈絵画〉 〈彫刻〉 〈デザイン〉 〈映像〉	各自のテーマに従って作品をつくる。 アイデア・スケッチをし、具体的な素材、材料を用意し、制作していく。	
	2	同	細部と全体を意識し、表面的な表現にならないようにする。	
	3	同	自他の作品を鑑賞する。	講評と観賞

教科名 **外国語** 科目名 **英語コミュニケーション I** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **4** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **FLEX ENGLISH COMMUNICATION I (増進堂)**

副教材（発行所） **英文法・語法Vintage(いわずな書店) / 入門英文問題精講(旺文社)**

学習目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を的確に理解する能力、英語で自身の意見を適切に表現し発表する能力を総合的に培う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることが出来るかを、小テストや定期考査で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。(小テストにはスピーキングテストも含む。)観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	Lesson 2 The Jar of Life	【文法事項】動名詞 / 間接疑問文 人生の中で、優先順位を考えることの大切さを学び自分たちでも実際に考える。	準備課題提出 確認テスト
	5	同上	同上	中間考査
	6	Lesson 3 It's Always Sunny In Space!	【文法事項】後置修飾 / 現在完了形 地球を守るためにはどんなことを意識すればよいかを考える。	
	7	Lesson 4 Malala : Fighting for Women's Rights	【文法事項】関係代名詞 / 過去完了形 マララの生き方を通して、教育を受ける意義や情勢の権利について考える。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	Lesson 5 Mount Fuji	【文法事項】使役動詞 / 節を導く形式主語it 富士山が人々に与えてきた影響や世界文化遺産に選ばれた理由を考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	Lesson 6 Thomas the Tank Engine and SDGs	【文法事項】関係代名詞what / 強調構文 テレビ番組を通してSDGsの問題について幅広い視点を養いながら考える。	中間考査
	11	Lesson 7 Virttual Water	【文法事項】関係代名詞非制限用法 / 関係副詞 "仮想水"という考え方を知り、水がどれだけ大切なものであるかを考える。	
	12	Lesson 8 Wearable Robots May Change Our Life	【文法事項】仮定法過去 / 仮定法過去完了 日本で起きている社会問題を知り、"wearable robots"の有用性を考える。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	Lesson 9 Biomimicry - Inspired by Nature	【文法事項】知覚動詞 / 分詞構文 生態系から得られた学びがどのように実生活に生かされているかを知り、様々な問題への解決策を考える。	冬季課題提出 確認テスト
	2	Lesson 10 Donald Keene and His Love of Japan	【文法事項】前置詞 + 関係代名詞 / 完了進行形 Donald Keeneの生涯を知り、彼が日本や世界にどのような影響を与えたのかを考える。	
	3	同上	同上	学年末考査 課題学習

教科名 **外国語** 科目名 **論理・表現 I** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **be English Logic and Expression I Smart (いいずな書店)**

副教材(発行所) **英文法・語法Vintage / be English Logic and Expression I Smart Grammar Book / 総合英語be English Grammar 46 workbook (いいずな書店)**

学習目標	学習した文法規則や表現方法を活用しながら、自分の考えや意見等を英語を用いて能動的に発信しようとする態度を培うとともに、論理展開や表現方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える力を養う。	
観点別評価	知識・技能	自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にししながら、正しい情報や自分の考えを伝えあうことが出来ているかどうかを、小テストや定期考査、授業中の取り組み等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	Introduction 「やり取り」「発表」「書く」ためのウォーミングアップ Lesson 1 Meeting People	英語の語順/名詞・形容詞・副詞・動詞の使い方/英語の文の種類/ 英語の文のつなぎ方(接続詞・接続副詞) 現在形/現在進行形/状態動詞・動作動詞	準備課題提出 確認テスト
	5	Lesson 2 Holidays and Weekends Lesson 3 Making Plans	過去形/過去進行形/used to doを用いた表現 未来を表す表現(will/be going to do)/未来進行形/ 時や条件を表す副詞節の中の時制	中間考査
		6	Lesson 4 Travel Lesson 5 Study and Activities Review① Lesson 6 Food	現在完了形(完了・経験・継続)/現在完了進行形/過去形と完了形 過去完了形/過去完了進行形/大過去/未来完了形 Lesson 1-5の復習(時制の復習) 助動詞の用法①(可能/可能性/過去の推量)
	7	Lesson 7 School Life Lesson 8 Daily Life Lesson 9 Transportation Issues Review②	助動詞の用法②(命令/禁止/断定/推測/過去の後悔・確信) 助動詞の用法③(意志/過去の習慣/依頼・提案) 受動態/進行形・完了形を用いる受動態/感情を表す受動態 Lesson 6-9の復習(助動詞と受動態の復習)	期末考査 課題学習
		9	Lesson 10 The Future Lesson 11 Staying Healthy Lesson 12 New Products	不定詞①(名詞用法/疑問詞+不定詞/意味上の主語/否定形) 不定詞②(形容詞用法/副詞用法(目的・原因)/形容詞+不定詞) 不定詞③(SVO+不定詞/使役動詞・知覚動詞と原形不定詞/ 不定詞の進行形・受動態・完了形)
	10		Lesson 13 Hobbies and Interests Lesson 14 The World of Nature Lesson 15 Trouble and Accidents Review③	動名詞/動名詞の意味上の主語/動名詞の受動態・完了形 分詞①(限定用法/分詞形容詞/叙述用法/分詞を使う表現) 分詞②(SVO+分詞/知覚動詞と分詞/分詞構文/付帯状況のwith) Lesson10-15の復習(準動詞の復習)
		11	Lesson 16 Technology and Invention Lesson 17 Achievements	関係詞①(関係代名詞(主格・目的格・所有格)/前置詞と関係代名詞) 関係詞②(関係代名詞の非限定用法/情報を付け加える which/関係代名詞 what)
12	Lesson 18 Cities and Towns Lesson 19 Living Environment		関係詞③(関係副詞/関係副詞の限定用法・非限定用法/複合関係詞) 比較①(原級/比較級/倍数・分数表現/比較対象の表し方)	期末考査 課題学習
	第3学期	1	Lesson20 Social Problems Review④ プレゼンテーションをしてみよう! Lesson21 Making a Wish	比較②(最上級/原級・比較級・最上級の表現) Lesson 16-20の復習(比較・関係詞の復習) 既習事項を用いて原稿を作り、グループでプレゼンテーションを行う。 仮定法過去/仮定法過去完了/願望を表す仮定/仮定法を用いた表現
2		Lesson 22 Cross-cultural Communication Lesson 23 Giving Options Review⑤	接続詞(名詞節のthat・whether/時・理由・条件/譲歩/接続副詞) 提案・要求を表す動詞と用いるthat節/so~thatとso that/It is said that S+V/ It is certain that S+V) Lesson 21-23の復習(文のつなぎ方の復習)	
		3	ディスカッションをしてみよう!	既習事項を用いて与えられたテーマに関してディスカッションを行う。

教科名 **家庭科** 科目名 **家庭基礎** **必修**

科別 **普通科** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版）**

副教材（発行所） **生活ハンドブック（第一学習社）**

学習目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭・衣食住、消費生活や環境など生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともにそれらにかかわる技能を身につけるようにする。
観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭・衣食住、消費生活や環境など生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともにそれらにかかわる技能を身につけている。
別	思考・判断・表現 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
評価	主体的に学習に取り組む態度 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
留意事項	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第9章 消費行動を考える 1節 消費行動と意思決定 2節 消費生活の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な消費行動について多角的に考える。 情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 契約、多様な販売方法や支払い方法や支払いについて学ぶ。 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 	
	5	3節 消費者の権利と責任 4節 ライフスタイルと環境	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 これからの社会に求められる消費者の自覚と行動のあり方を検討する。 日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。 	1学期中間考査
	6	第10章 経済的に自立する 1節 暮らしと経済 2節 将来のライフプランニング	<ul style="list-style-type: none"> 生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 適切な家計管理について考える。 将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。 	
	7	生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。 家庭基礎の学習を生かして、自分らしい生き方を設計する。 	1学期期末考査
第2学期	9	第6章 食生活をつくる 1節 日本の食文化の形成 2節 私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。 	
	10	3節 栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。 	第1回調理実習 2学期中間考査
	11	4節 食品の選び方と安全	<ul style="list-style-type: none"> 旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。 	第2回調理実習
	12	5節 食事の計画と調理 6節 これからの食生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 環境に配慮した食生活（食品ロス）について考える。 	りんごの皮むき 実技試験 2学期期末考査
第3学期	1	第2章 自分らしい生き方と家族 3節 共に生きる家族	<ul style="list-style-type: none"> 「家族」の条件とは何か考える。 家族のライフイベントについて考える。 家族が抱える問題を踏まえて、家族を支える仕組みについて具体的に考える。 	
	2	4節 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。 	3学期期末考査
	3	4節 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 家族に関する法律の理念や背景・改正点について理解する。 	